

天上では全能の神ゼウスが文豪トルストイと才女の紫式部を呼んで地上の様子を聞いている。

元日に、それぞれの分身たちが地上に降り、言葉の乱れを正そうとしているのだが、思うように進展していない。

ゼウスは十か月かけても成果がさほど得られないことに落胆し、人間が使える言語を一つにしてしまう計画を打ち明けた。

その言語には敗戦後、戦争の放棄を憲法で定めているということによって日本語が選ばれた。

ついでには分身たちをさらに派遣して日本語の普及に努めるように、とゼウスはトルストイと紫式部に命じた。

ゼウスの決断により、日本語を母語としない人々に翻訳用の眼鏡が装着された。

全ての文字が日本語に翻訳されて表示される。それぞれの母語に翻訳された字幕が眼鏡のレンズに映し出される。

会話は日本語に翻訳して眼鏡に内蔵されたスピーカーから発せられる。脳で考えたことが全て翻訳されてしまうので秘密が漏れてしまう。聞く人は母語に翻訳された字幕を見て理解することになる。

通貨は円に統一された。紙幣が大量に印刷されたが、二千円札が人気である。まさに神業で世界中に日本語があふれていく。多くの人が眼鏡のレンズに映し出される字幕を見ながら呆然としている。

日本では通訳や翻訳を職業としている人たちは職を失ったも同然である。翻訳用の眼鏡が瞬時に翻訳してくれるからである。翻訳家たちは自分がかつて翻訳した作品の原作が日本語になっているのを読んで、自分の誤訳を恥じると同時にその日本語の美しさに魅了された。奮起して作家に転向する者もいる。

日本語以外の辞書は封印されて読むことができない。

外国語会話スクールは閉鎖された。

外国語学校は日本語で説明することが条件で外国の文学や歴史の授業をすることが許可された。学校や大学での外国語の授業も同様である。

ゼウスの決断は日本にも影響を及ぼしたが、外国に比べると微々たるものであった。

外国の学校では日本語の習得が優先された。教科書が全て日本語に翻訳されたからである。

学校に通っていない人たちは、翻訳用の眼鏡を装着しながら日本語習得アプリで勉強していく。

作家たちは新作を考え続けた。考えた内容は瞬時に神の日本語に翻訳され、作家は眼鏡のレンズに映し出された母語の字幕で確認している。過去の作品も含め自分の作品の翻訳で日本語を習得していく。紫式部の分身は彼らの情熱に警戒心を抱いた。

日本語に翻訳された作品は本としても電子書籍としても販売された。

神は粗野な表現を嫌うので、作品の中での会話も品のあるものになり、世俗的な作品を好む者には物足りなさを感じさせることもあった。